

日立金属株式会社

2017年度第1四半期決算説明

2017年7月27日

1. 2017年度第1四半期 概況

需要 動向

世界経済は、先進国を中心に緩やかに回復
国内は、世界経済の回復を受けて輸出や設備投資が
持ち直すとともに、雇用・所得環境の改善が継続し、
景気は緩やかな回復基調

- 自動車は、新車販売台数が米国では前年同期と比べて減少したが、国内では新型車が需要をけん引する形で大きく伸長し、中国・欧州も堅調に推移
- 産業インフラ関連は、鉄鋼は、自動車や産業機械をはじめとする製造業部門を中心に需要が増加
住宅着工戸数は、横ばい圏で推移
- エレクトロニクス関連は、携帯端末の出荷台数が大きく伸長

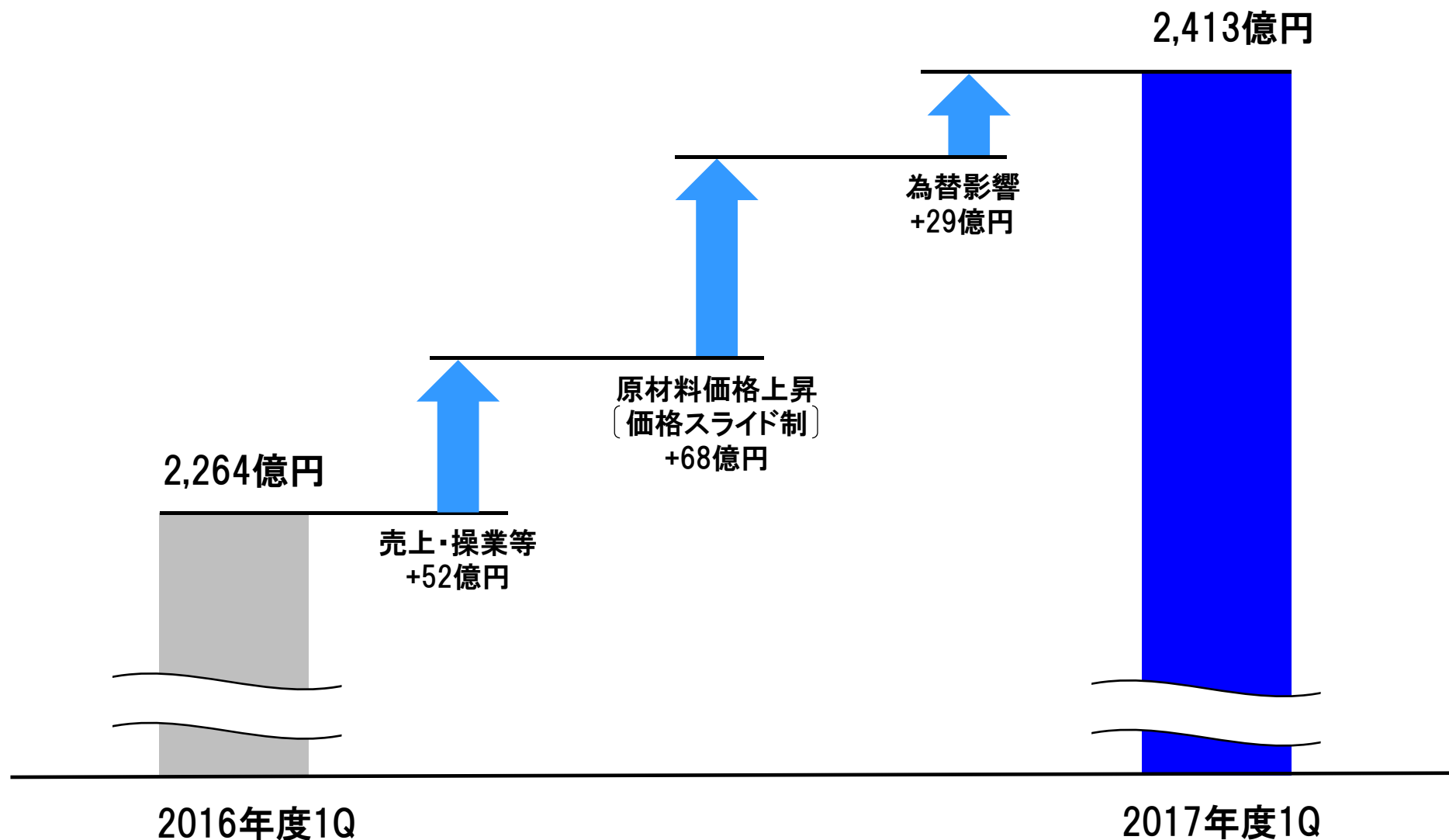
2. 2017年度第1四半期業績

(金額単位 億円) ()は利益率	2016年度 1Q実績 1\$=108円 1€=122円 1元=16.5円	2017年度 1Q実績 1\$=111円 1€=122円 1元=16.2円	前年 同期比	補足
売上収益	2,264	2,413	+7%	主力製品を中心とした需要増加に加え、原材料価格上昇(価格スライド制)や為替が円安になった影響により前年同期比で増加
調整後営業利益*1	(7.2%) 163	(7.3%) 177	+14	売上収益の増加に伴う利益の増加や原価低減活動の効果等により前年同期比で増益
その他の収益	13	8	△5	
その他の費用	△ 23	△ 14	+9	
IFRS営業利益	(6.8%) 153	(7.1%) 171	+18	
EBIT	131	186	+55	為替差損益の改善、持分法投資損益の改善により増益
税引前当期利益	124	181	+57	
法人所得税費用	△ 28	△ 42	△14	
親会社株主に帰属する四半期利益	95	139	+44	
海外売上比率*2	56%	58%	+2%	

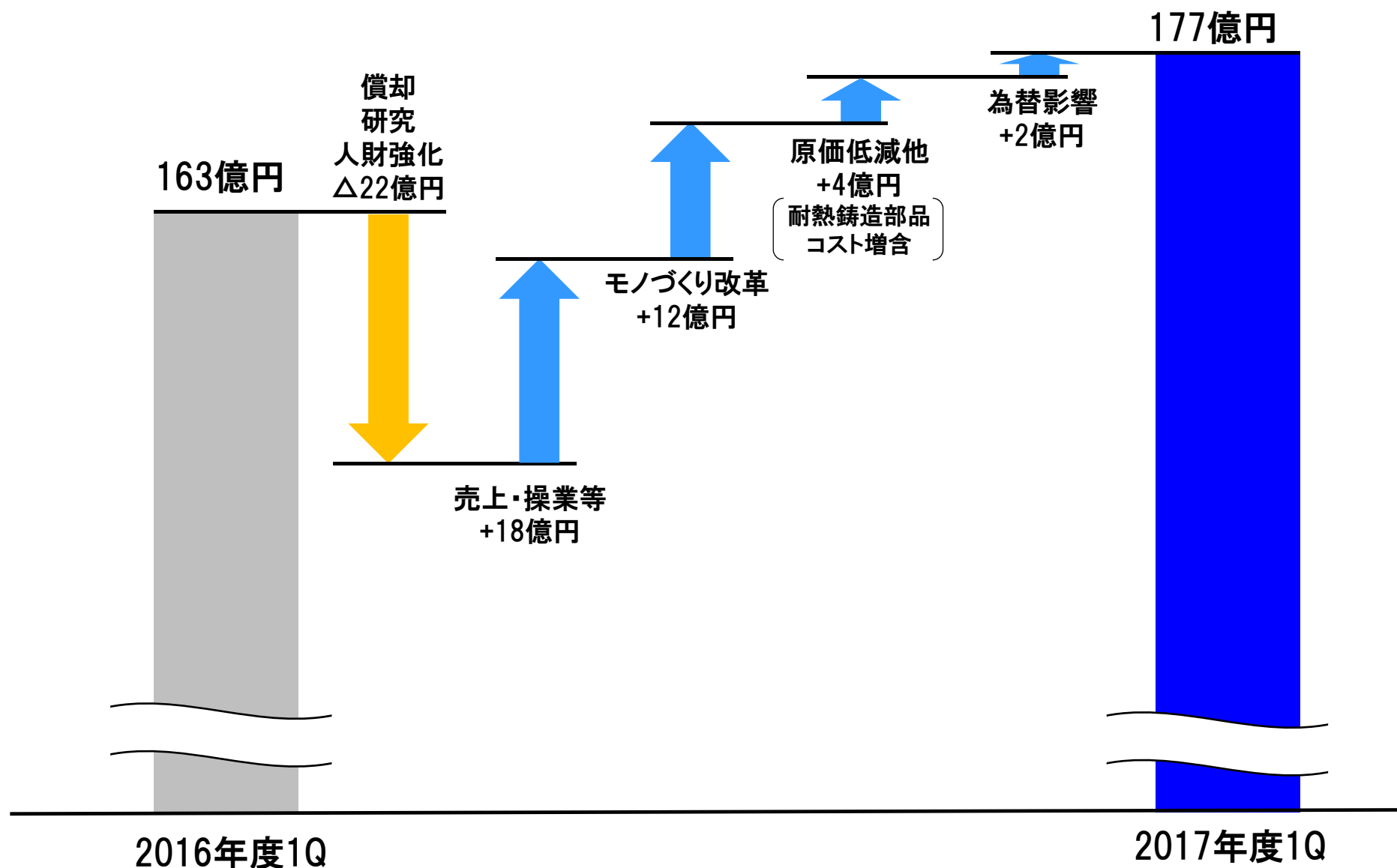
*1 調整後営業利益:(売上収益) - (売上原価) - (販売費及び一般管理費)

*2 海外売上地域別構成比 17年度1Q:北米32%、中国7%、その他アジア13%、欧州5%、その他1%
16年度1Q:北米31%、中国7%、その他アジア11%、欧州5%、その他2%

3. 売上収益の増減要因(前年同期比)



4. 調整後営業利益の増減要因(前年同期比)



5. 2017年度第1四半期 セグメント別業績

(金額単位 億円) ()は利益率		2016年度 1Q実績 1\$=108円 1€=122円 1元=16.5円	2017年度 1Q実績 1\$=111円 1€=122円 1元=16.2円	前年 同期比
特殊鋼製品	売上収益	586	613	+5%
	調整後営業利益	(10.8%) 63	(11.4%) 70	+7
	セグメント利益	(10.6%) 62	(11.3%) 69	+7
磁性材料	売上収益	239	253	+6%
	調整後営業利益	(5.4%) 13	(7.9%) 20	+7
	セグメント利益	(5.4%) 13	(8.3%) 21	+8
素形材製品	売上収益	839	912	+9%
	調整後営業利益	(6.2%) 52	(4.3%) 39	△13
	セグメント利益	(6.2%) 52	(3.9%) 36	△16
電線材料	売上収益	597	632	+6%
	調整後営業利益	(4.4%) 26	(6.3%) 40	+14
	セグメント利益	(3.2%) 19	(6.2%) 39	+20
その他・調整額	売上収益	3	3	—
	調整後営業利益	9	8	△1
	セグメント利益	7	6	△1
合計	売上収益	2,264	2,413	+7%
	調整後営業利益	(7.2%) 163	(7.3%) 177	+14
	IFRS営業利益	(6.8%) 153	(7.1%) 171	+18

6. セグメント別業績：特殊鋼製品(1)

■全体概況

【売上収益・調整後営業利益】

工具鋼、産業機器材料、電子材料を中心に需要が伸長し、増収・増益

■製品別状況

【特殊鋼】

- ・工具鋼：国内向け、アジア向けともに需要が回復し、前年同期を上回った
- ・産業機器材料：自動車関連の環境親和製品が増加したことに加え、その他産業部材でも半導体関連装置向け部材が増加したことにより、全体として前年同期と比べ伸長
- ・電子材料：半導体パッケージ材料が好調となったことに加え、電池用材料が増加した結果、前年同期を大きく上回った
- ・航空機関連材料およびエネルギー関連材料：低調

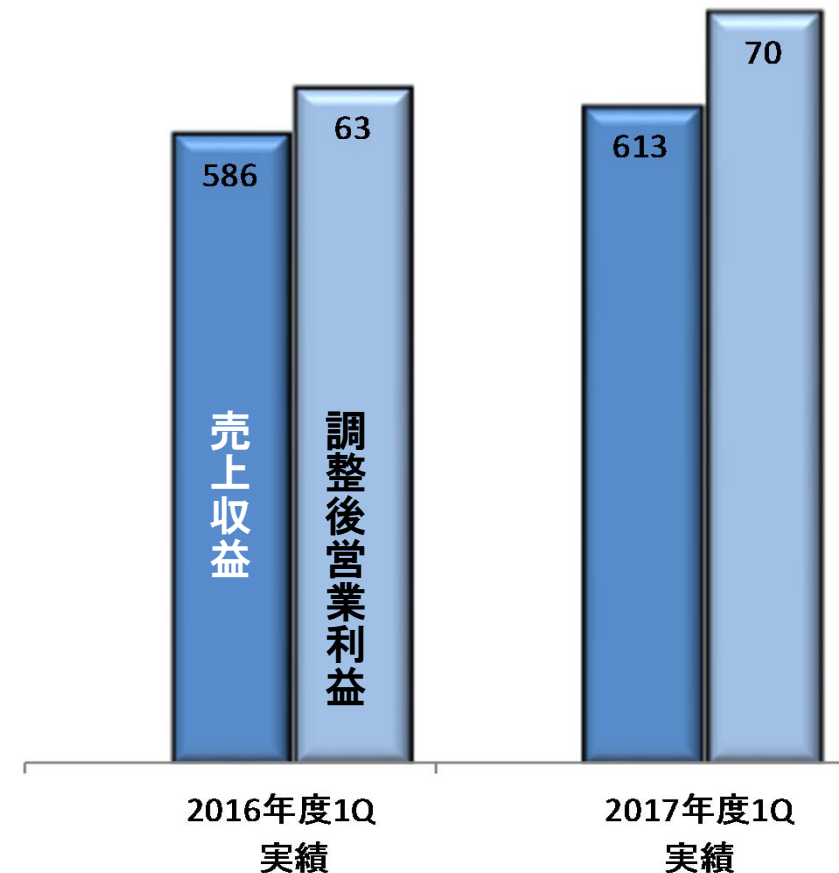
【ロール】

- ・射出成形機用部品：携帯端末の需要増加を受けて好調
- ・各種ロール：高付加価値製品に経営資源を集中することを目的に、2016年9月に中国子会社の生産を打ち切りこの結果、ロール全体としては前年同期と比べて減少

【軟磁性部材】

軟質磁性材料およびその応用品については、応用品が携帯端末や自動車向けの需要増加により堅調となったが、アモルファス金属材料が減少したことにより、全体としては前年同期を下回った

(金額単位：億円)



7. セグメント別業績：特殊鋼製品(2)

(金額単位 億円)		2016年度 1Q実績 1\$=108円 1€=122円 1元=16.5円	2017年度 1Q実績 1\$=111円 1€=122円 1元=16.2円	前年 同期比
特殊鋼製品	売上収益	586	613	+5%
	特殊鋼 [◎]	453	496	+9%
	工具鋼 [□]			+10%
	産業機器材料 [□]			+11%
	航空機・エネルギー [□]			△12%
	電子材料 [□]			+21%
	ロール [◎]	55	51	△7%
	軟磁性部材 [◎]	78	66	△15%
	調整後営業利益	63	70	+7
	調整後営業利益率	10.8%	11.4%	+0.6%
セグメント利益	62	69	+7	

◎ セグメント間相殺前の単純合計値です。

□ 簡易的な方法により集計した売上収益(金額)の増減比を表示しております。

8. セグメント別業績：磁性材料(1)

■全体概況

【売上収益・調整後営業利益】

自動車用電装部品や産業機器関連が好調となり、増収・増益

■製品別状況

【希土類磁石】

電動パワーステアリングおよびハイブリッド自動車向け等の自動車用電装部品の需要が増加

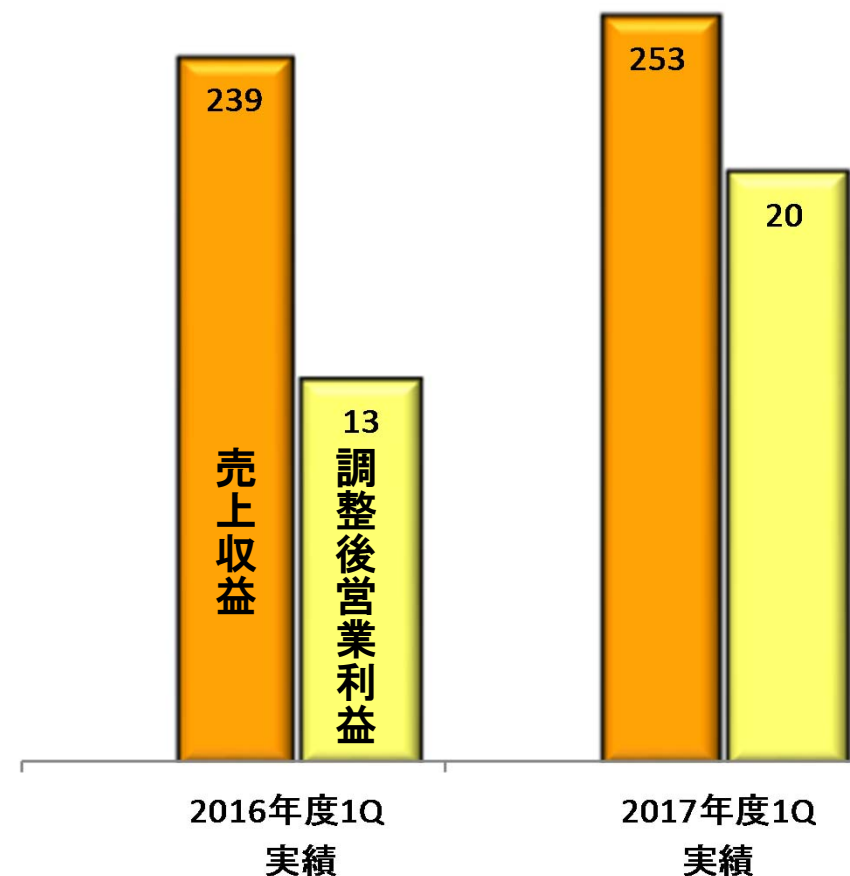
また、産業機器関連もフラットパネルディスプレイや携帯端末および半導体等向けの設備投資関連需要の増加を受けて好調

この結果、全体としても前年同期を上回った

【フェライト磁石】

自動車生産の伸びに伴い自動車用電装部品が好調となり、家電用部品も堅調に推移したため、前年同期と比べ増加

(金額単位:億円)



9. セグメント別業績：磁性材料(2)

(金額単位 億円)		2016年度 1Q実績 1\$=108円 1€=122円 1元=16.5円	2017年度 1Q実績 1\$=111円 1€=122円 1元=16.2円	前年 同期比
磁性材料	売上収益	239	253	+6%
	希土類磁石(重量)			+15%
	フェライト磁石(重量)			+3%
	調整後営業利益	13	20	+7
	調整後営業利益率	5.4%	7.9%	+2.5%
	セグメント利益	13	21	+8

10. セグメント別業績: 素形材製品(1)

(金額単位: 億円)

■全体概況

【売上収益】

鑄鉄製品や耐熱鑄造部品の需要増加により増収

【調整後営業利益】

耐熱鑄造部品の需要急増に伴うコスト増等により減益

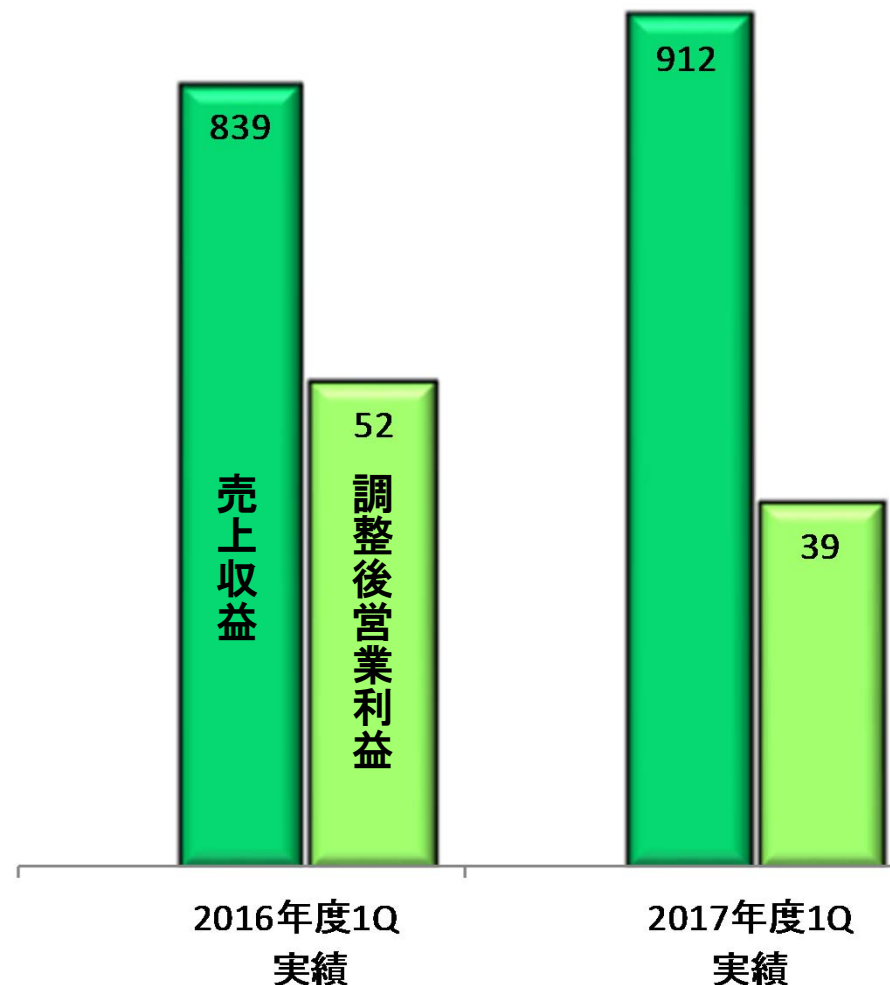
■製品別状況

【自動車用鑄物】

- ・鑄鉄製品: 北米では、ピックアップトラックなどのライトトラック向けや乗用車向けが減少した一方で、商用車や農業機械・建設機械向けの需要が増加
また、国内やアジアでも自動車需要の伸長に伴い増加
この結果、全体としては前年同期と比較して増加
- ・耐熱鑄造部品: 米国・欧州・アジア向けともに大きく伸長し、前年同期を上回った
- ・アルミホイール: 北米の乗用車需要が減少した影響等により、前年同期を下回った

【配管機器】

継手類は、国内向けの減少を海外向けの需要の増加で補った
また、半導体関連の需要の増加を受けて半導体製造装置用機器が好調
この結果、配管機器全体としては前年同期を上回った



11. セグメント別業績：素形材製品(2)

(金額単位 億円)		2016年度 1Q実績 1\$=108円 1€=122円 1元=16.5円	2017年度 1Q実績 1\$=111円 1€=122円 1元=16.2円	前年 同期比
素形材製品	売上収益	839	912	+9%
	自動車用鋳物 [◎]	724	790	+9%
	鋳鉄製品(重量)			+3%
	耐熱鋳造部品 ハーキュナイト [®] (重量)			+57%
	アルミホイール(本数)			△21%
	配管機器 [◎]	115	123	+7%
	調整後営業利益	52	39	△13
	調整後営業利益率	6.2%	4.3%	△1.9%
	セグメント利益	52	36	△16

◎ セグメント間相殺前の単純合計値です。

12. セグメント別業績：電線材料(1)

(金額単位:億円)

■全体概況

【売上収益・調整後営業利益】

電線、機能品とも需要が増加し、増収・増益

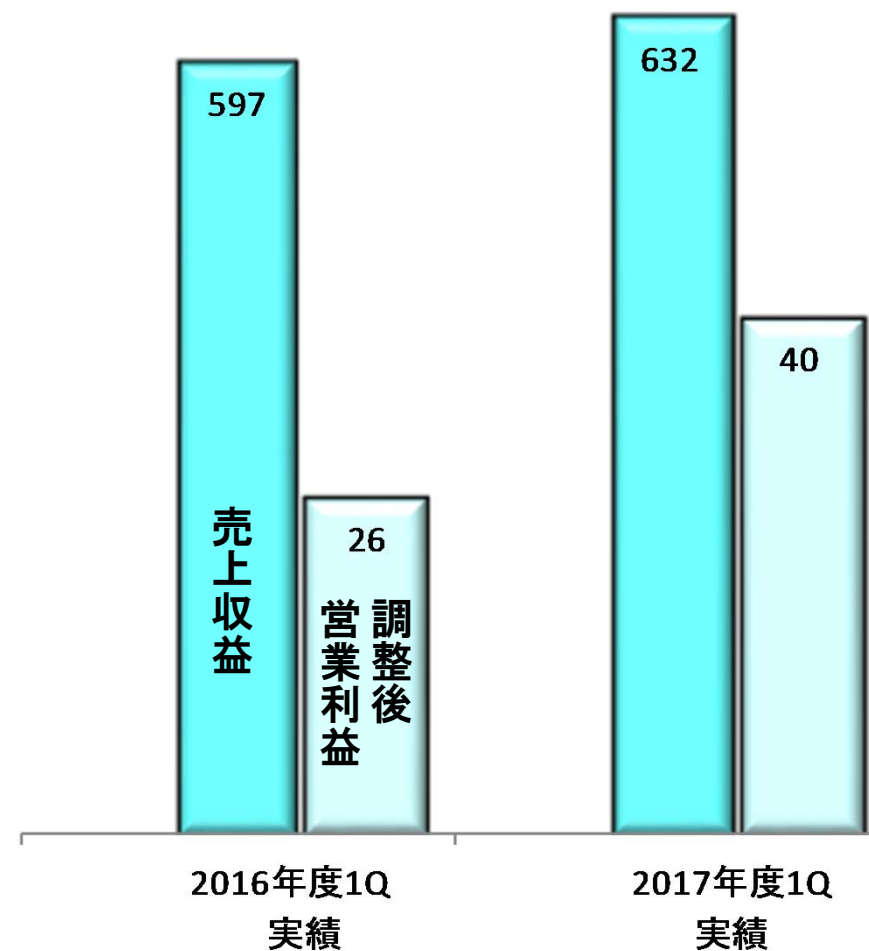
■製品別状況

【電線】

鉄道車両用電線が中国向けを中心に大きく伸長
また、機器用電線が半導体製造装置向けや工作機械向けが増加したほか、巻線も自動車向けや産業機械向けが好調

【機能品】

- ・自動車部品:各種センサや、電動パーキングブレーキおよびハイブリッド自動車向けのハーネスが伸長し、ブレーキホースも堅調
- ・医療用プローブケーブル:海外向けの需要が増加し、前年同期を上回った



13. セグメント別業績：電線材料(2)

(金額単位 億円)		2016年度 1Q実績 1\$=108円 1€=122円 1元=16.5円	2017年度 1Q実績 1\$=111円 1€=122円 1元=16.2円	前年 同期比
電線材料	売上収益	597	632	+6%
	鉄道 [□]			+30%
	医療 [□]			+12%
	電装部品 [□]			+15%
	調整後営業利益	26	40	+14
	調整後営業利益率	4.4%	6.3%	+1.9%
	セグメント利益	19	39	+20

□ 簡易的な方法により集計した売上収益(金額)の増減比を表示しております。

14. 資産/負債・純資産

(金額単位 億円)	2016年度末 1\$=112円 1€=120円 1元=16.3円	2017年6月末 1\$=112円 1€=128円 1元=16.5円	増減
資産合計	10,404	10,499	+95
うち売上債権及び棚卸資産	3,291	3,540	+249
負債合計	4,916	4,920	+4
うち有利子負債	1,945	1,934	△11
親会社株主持分	5,366	5,457	+91
非支配持分	122	122	0
親会社株主持分比率	51.6%	52.0%	+0.4%
D/Eレシオ(倍)	0.36	0.35	△0.01

【資産】 2016年度末比 95億円増加

⇒売上債権、棚卸資産の増加等

【負債】 2016年度末比 4億円増加

【D/Eレシオ】 ほぼ横ばい

15. 連結キャッシュ・フロー

(金額単位 億円)	2016年度 1Q実績	2017年度 1Q実績	前年同期比
営業活動に関するキャッシュ・フロー	79	26	△53
投資活動に関するキャッシュ・フロー	△ 109	△ 168	△59
フリー・キャッシュ・フロー	△ 30	△ 142	△112
コア・フリー・キャッシュ・フロー*	△ 50	△ 151	△101

【営業キャッシュ・フロー】

当期利益の増加があったが、売上債権、棚卸資産の増加等により、前年同期比53億円の減少

【投資キャッシュ・フロー】

有形固定資産の取得の増加(2016年度1Q 122億円→2017年度1Q 175億円)により、前年同期比59億円の減少

【フリー・キャッシュ・フロー】

営業キャッシュ・フロー減少と投資活動増加に伴い、前年同期比112億円の減少

* コア・フリー・キャッシュ・フロー:(営業活動に関するキャッシュ・フロー) - (資本的支出)

参考データ(1)

(金額単位 億円)	2015年度 実績 1\$=120円	2016年度 実績 1\$=108円 1€=119円 1元=16.1円	2016年度 1Q実績 1\$=108円 1€=122円 1元=16.5円	2017年度 1Q実績 1\$=111円 1€=122円 1元=16.2円	2017年度 予想 1\$=110円
売上収益	10,176	9,105	2,264	2,413	9,500
調整後営業利益	761	660	163	177	800
調整後営業利益率	7.5%	7.2%	7.2%	7.3%	8.4%
その他の収益	364	141	13	8	
その他の費用	△ 125	△ 118	△ 23	△ 14	
IFRS営業利益	1,000	683	153	171	
EBIT	991	685	131	186	660
税引前当期利益	962	660	124	181	630
親会社株主に帰属する当期利益	691	506	95	139	450
有利子負債	2,204	1,945	2,136	1,934	
設備投資額	596	638	106	152	900
減価償却費	429	430	106	113	470
研究開発費	191	180	45	39	200
D/Eレシオ(倍)	0.44	0.36	0.45	0.35	0.30
1株当たり当期利益(円)	161.50	118.32	22.25	32.49	105.24
1株当たり配当金(円)	26.0	26.0			26.0
1株当たり親会社株主持分(円)	1,159.7	1,254.9	1,118.0	1,276.3	1,333.1
人 員(人)	29,157	28,754	28,926	29,606	29,500
ROE ^{*1}	13.9%	9.4%			8.1%
ROA ^{*2}	6.7%	4.9%			4.3%
海外売上比率	56%	56%	56%	58%	56%

*1 親会社所有者帰属持分当期利益率(ROE) = 親会社の所有者に帰属する当期利益 ÷ 期末親会社所有者帰属持分 × 100

*2 資産合計当期利益率(ROA) = 親会社の所有者に帰属する当期利益 ÷ 期末資産合計 × 100

参考データ(2)

主要製品 重量動向

製 品		2017年度1Q/2016年度1Q 実績対比
特殊鋼製品	工具鋼	+14%
	CVTベルト材	+17%
	ピストンリング材	+16%
磁性材料	希土類磁石	+15%
素形材製品	鑄鉄製品	+3%
	耐熱鑄造部品 ハーキュナイト®	+57%
	アルミホイール(本数)	△21%

(参考) マーケット分野別事業構造



(参考) 日立金属 セグメント別事業内容(2017年4月1日～)

■日立金属の事業構造

事業セグメント	事業部門	主要製品
 特殊鋼製品	特殊鋼カンパニー	
	特殊鋼	高級特殊鋼[YSSヤスキハガネ](工具鋼、電子材料、〈ディスプレイ関連材料、半導体等パッケージ材料、電池用材料)、産業機器材料〈自動車関連材料、剃刃材および刃物材〉、航空機・エネルギー関連材料、精密铸造品) ※YSS、ヤスキハガネは日立金属の登録商標です。
	ロール	各種圧延用ロール、射出成形機用部品、構造用セラミックス部品、鉄骨構造部品
	軟磁性部材	軟質磁性材料(アモルファス金属材料[Metglas®]、ナノ結晶軟磁性材料[ファインメット®]、ソフトフェライト)およびその応用品
 磁性材料	磁性材料カンパニー	
	マグネット・応用品	マグネット(希土類磁石[NEOMAX®]、フェライト磁石、その他各種磁石およびその応用品)、セラミックス製品
 素形材製品	素形材カンパニー	
	自動車用鋳物	自動車用鋳物(高級ダクタイル鋳鉄製品 [HNM®]、輸送機器向け鋳鉄製品、排気系耐熱鋳造部品 [ハーキュナイト®])、アルミホイール [SCUBA®]、その他アルミニウム部品
	配管機器	設備配管機器(☞®印各種管継手、ステンレスおよびプラスチック配管機器、冷水供給機器、精密流体制御機器、密閉式膨張タンク)
 電線材料	電線材料カンパニー	
	電線	産業用電線、機器用電線、電機材料、工業用ゴム
	機能品	ケーブル加工品、自動車用電装部品、ブレーキホース

将来の見通しに関するリスク情報

本資料に掲載されている情報のうち業績予想、事業計画および配当予想等の歴史的事実以外のものは、各資料の作成時点において、予想を行うために合理的であると判断した一定の前提および仮定に基づいており、内在する仮定および状況の変化等により、実際の業績と異なる可能性があります。その要因となる主なものは次のとおりです。

- ・主要市場(特に日本、米州、アジア、欧州)における経済状況および各種規制
- ・急激な技術変化
- ・競争優位性および新技術・新製品の開発・事業化を実現する当社および子会社の能力
- ・製品市場、製品市況の変動
- ・為替相場の変動
- ・国際商品市況の変動
- ・資金調達環境
- ・製品需給、製品市況、為替相場および国際商品市況等の変動に対応する当社および子会社の能力
- ・自社特許の保護および他社特許の利用の確保
- ・製品開発等における他社との提携関係
- ・日本の株式相場の変動